紫羅繡譚
四十七編上
へ 13
3754
68

円 13
發 3754
巻 68

作者 柳亭種彦

廣岡文庫

画工

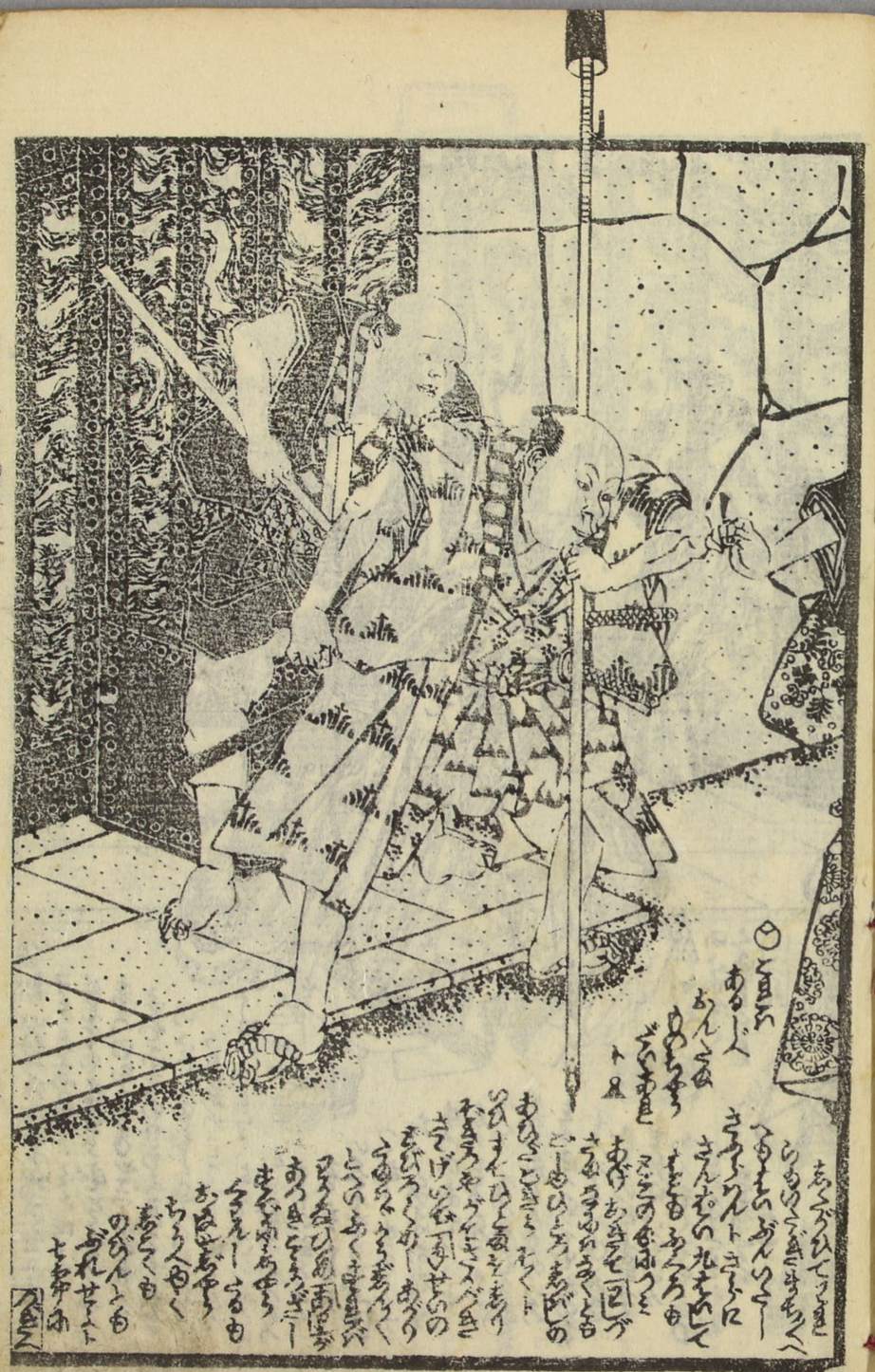
一

本編は人と人とが對ひ往吏を物がたり又後末を量るやうなる
條々きさまで強く話を除てしくせんとて添る蛇足も有
先作の矢太郎河原後に後瀬の山家とぶん真竜斎が切腹はつ
一場の狂言ぬ卯月ための夏木立の先鉾まく朧階
もの廣ごりて
顯しその燒かゝ柳の絲は燒よし弥長編
処もあき揃ひ結願の紙にのうち残を又
よろしき觜の紙

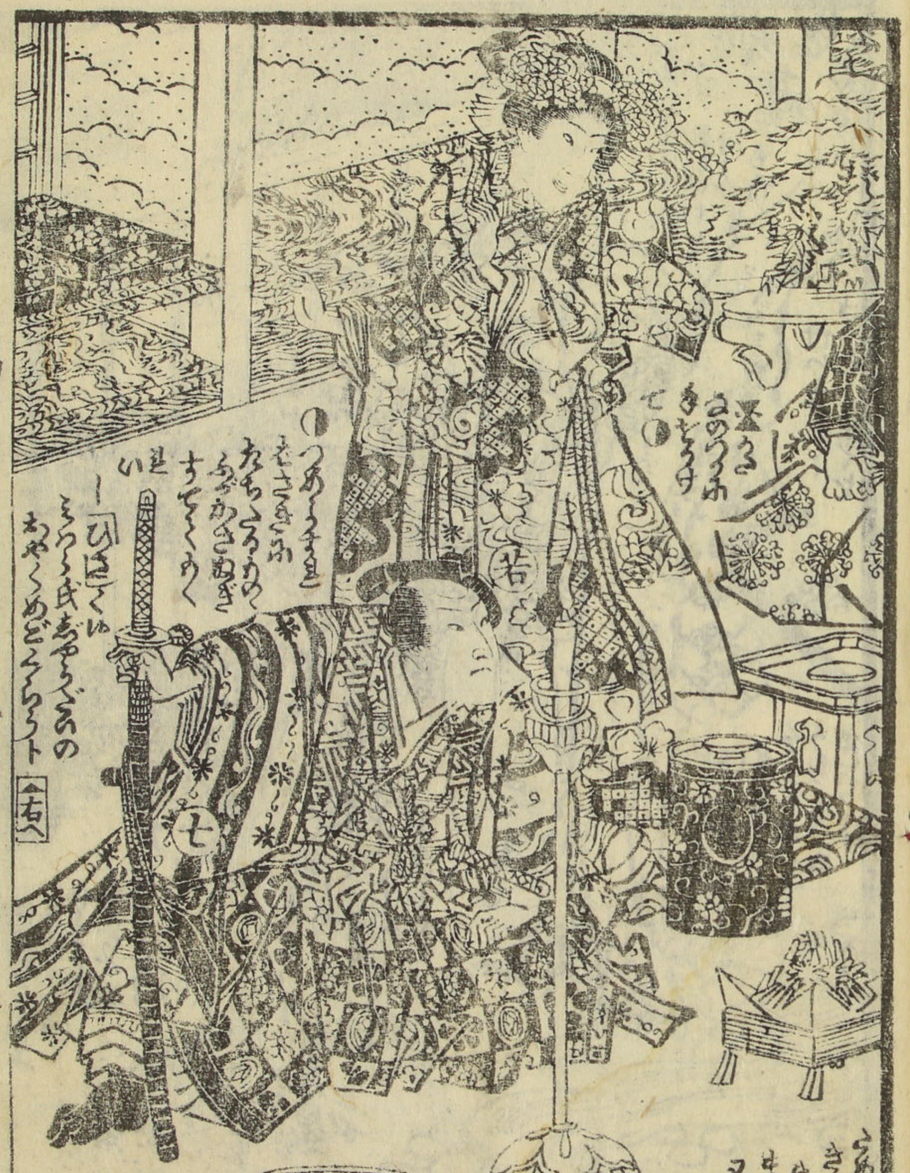
乙丑冬十月

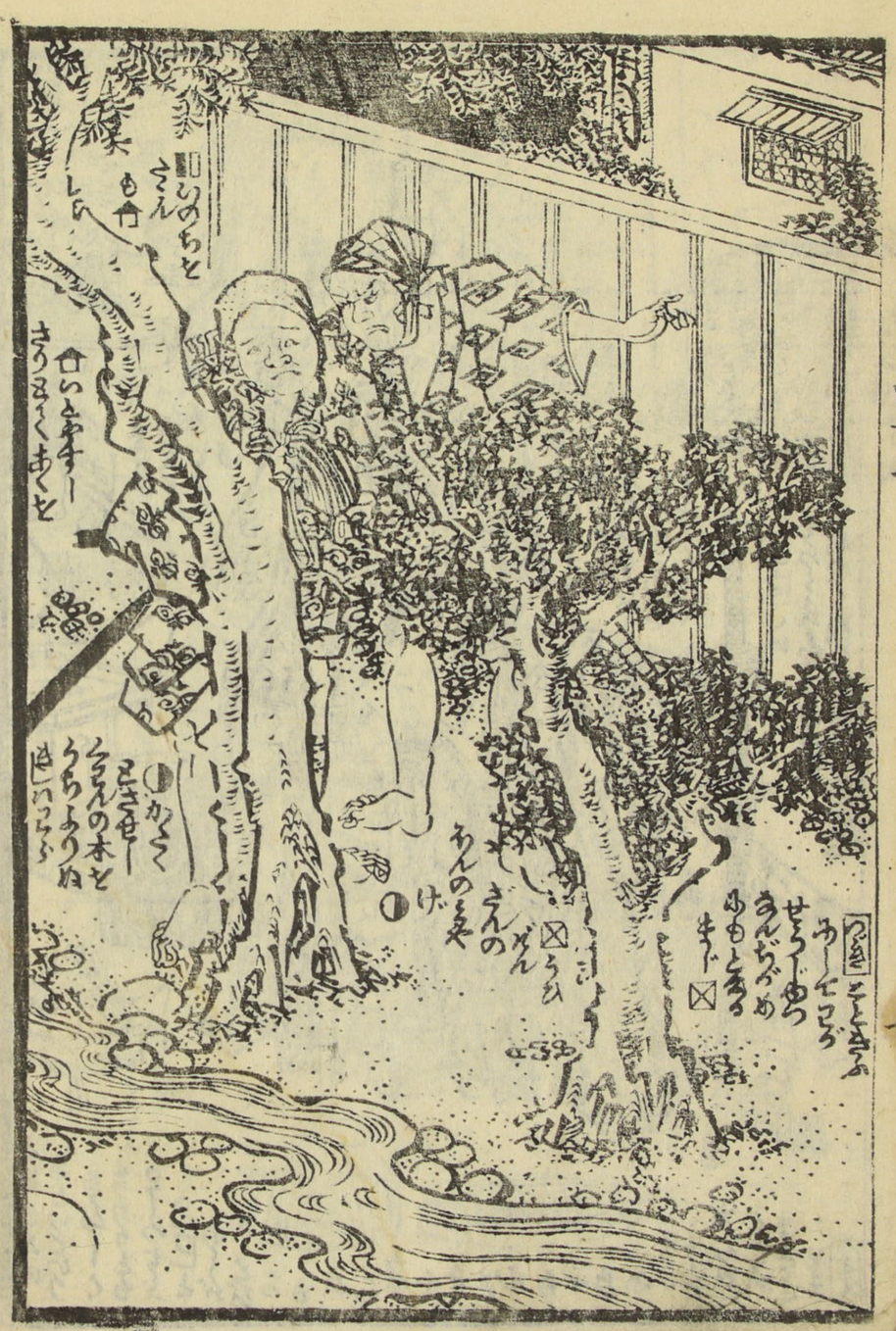
七

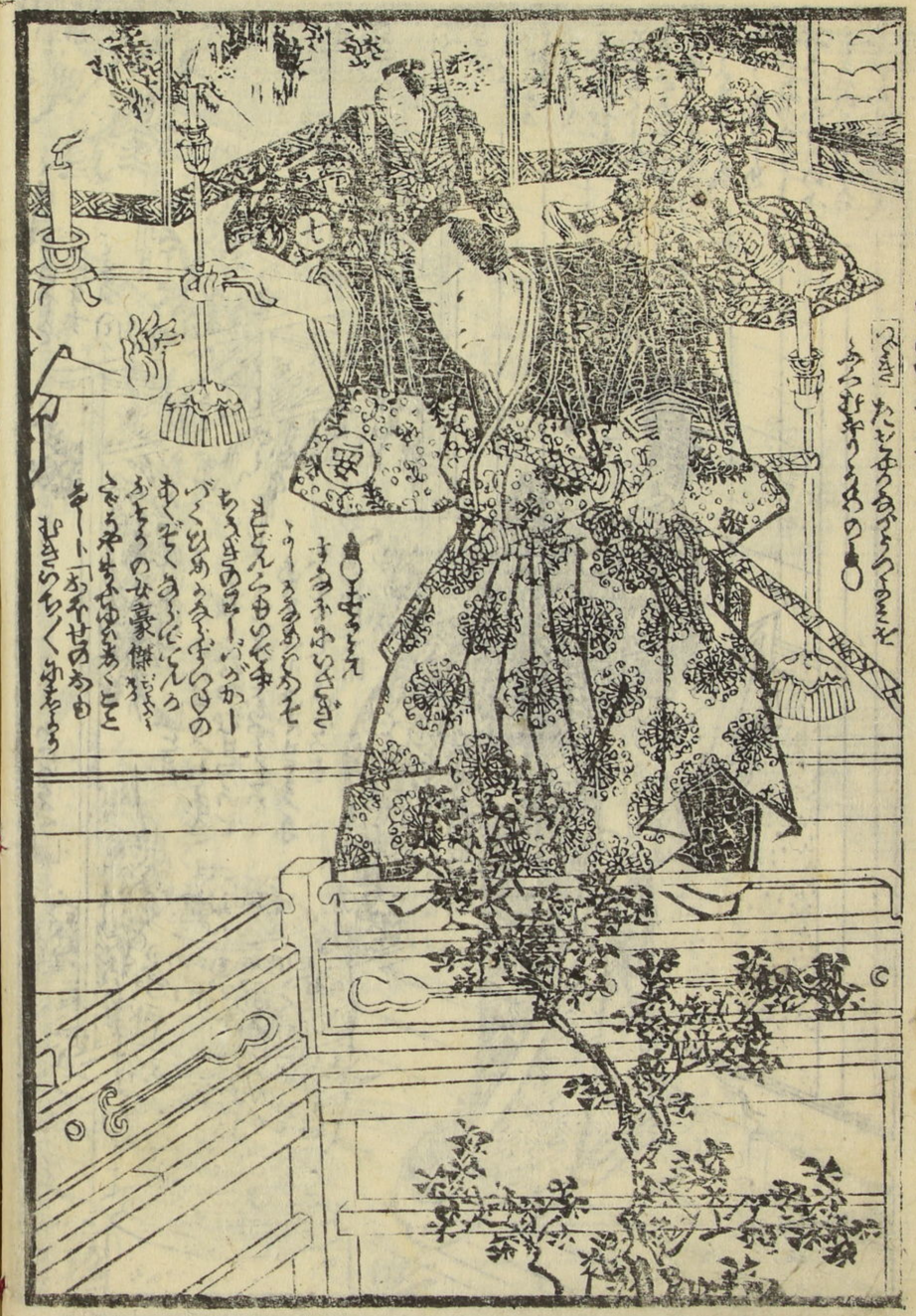
あまりぐるぐるくと
あまきていえうつむく
あさうらくおもい
かけあらそうあや
さんぎのうろ

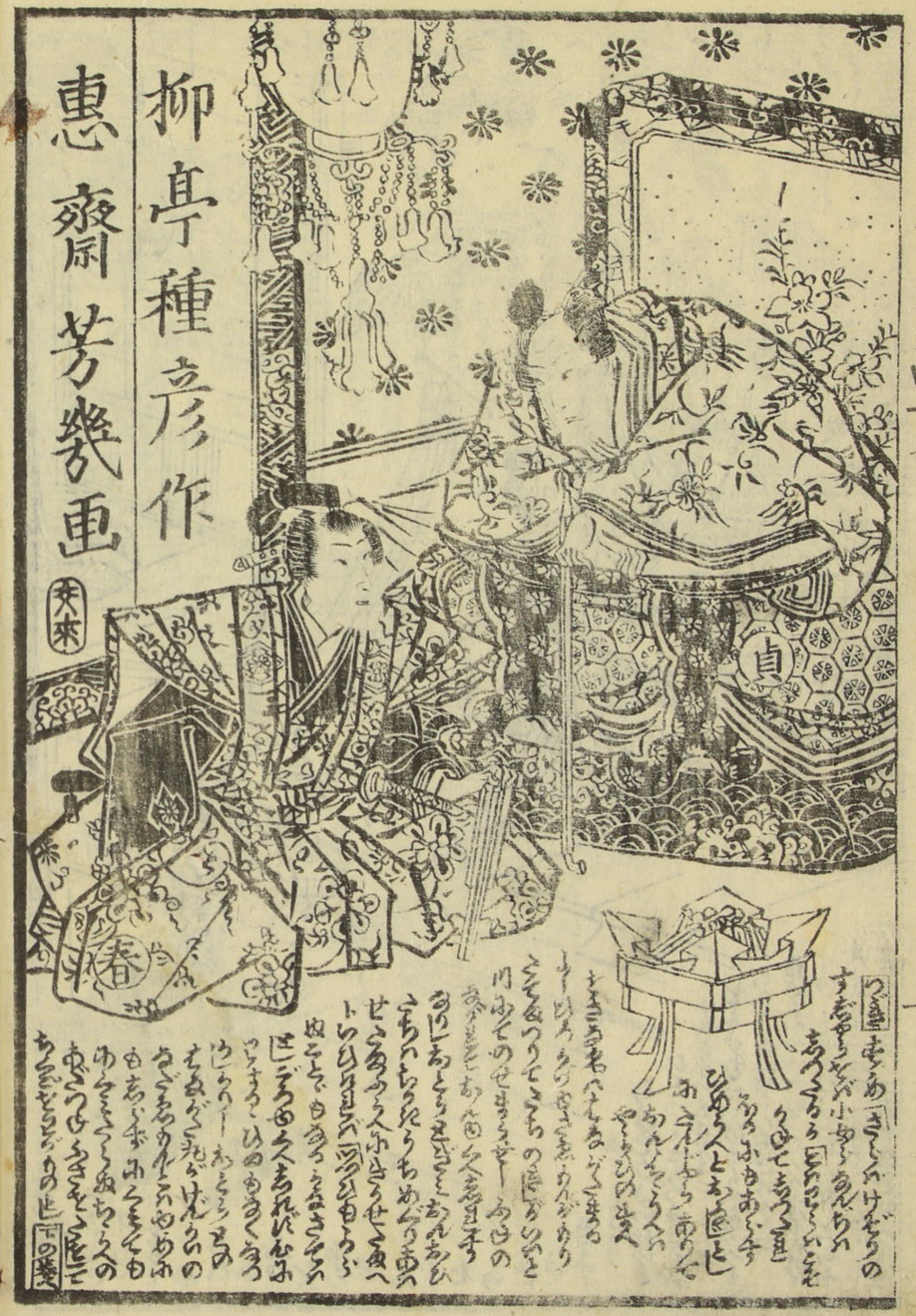


ろくろくびをつぎこ
あまりぐるぐるくと
あまきていえうつむく
あさうらくおもい
かけあらそうあや
さんぎのうろ

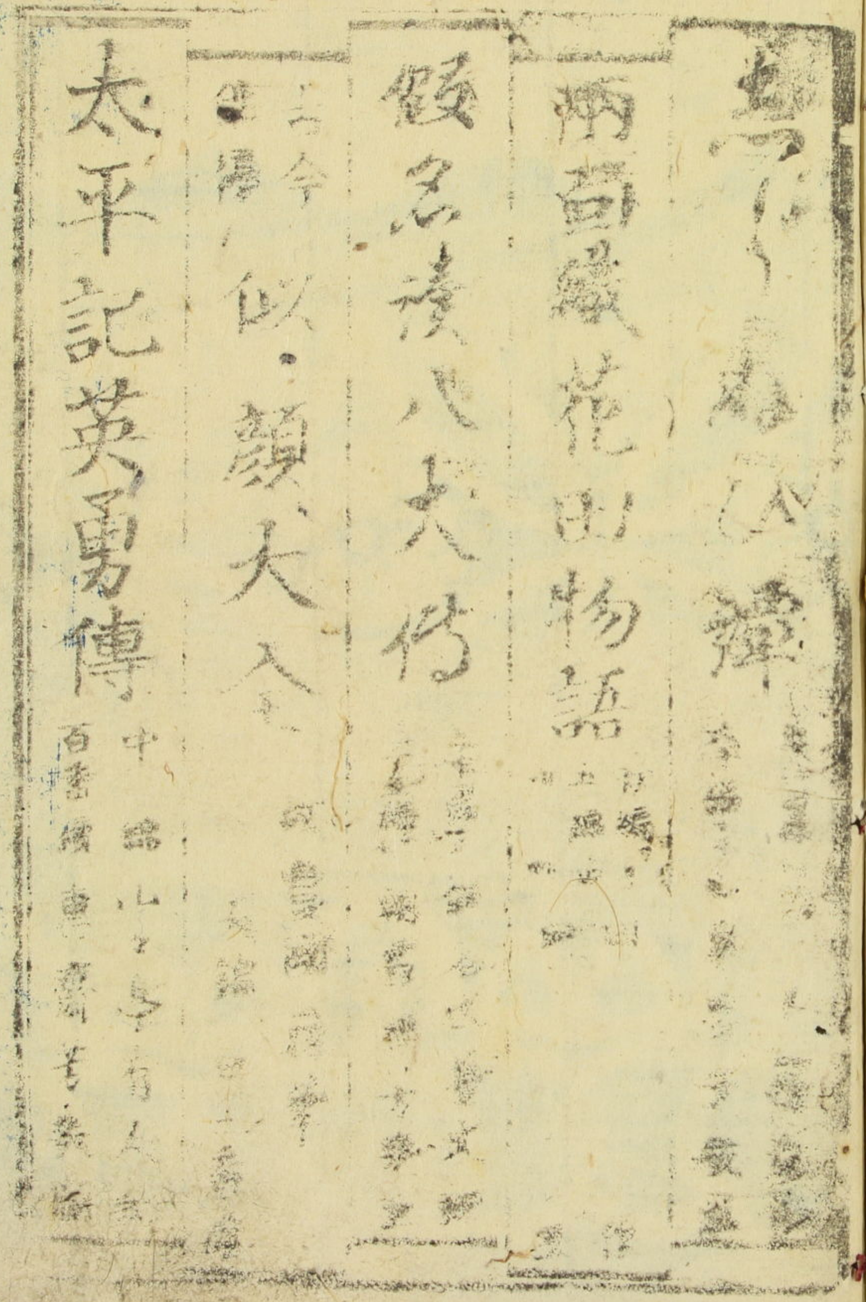








抑亭種彦作
惠齋芳幾画



太平記英勇傳